

「米を大切に たべます」



2011年 稲刈り体験ツアー

滋賀県・JAグリーン近江

9月10日 42人の親子が参加

むかしは、ぜんぶ「かま」でやってたのが、たいへんそうだった。いねは、けっこうかかった。コンバインにのせてくれて、ありがたうございました。米を大切にたべます。

天王寺区 松井健太さん(8歳)

カエル・ザリガニがいる田んぼは、安心して子どもに稲刈りがさせられます。また、お米も安心して買うことができます。あと、お米には88の作業があると聞いてびっくりしました。一つの種から多くのお米がとれるのもはじめて知り、勉強になりました。

住之江区 藤屋みどりさん

富山県・JAいなば

9月24日・25日
25人の親子が参加

2度目の参加です。小1の孫は行く前は「家でゆっくりしたい。行きたくない」と言っていたのですが、稲を刈って「やっぱり来てよかった!」ですって。小4の孫は「ばあば、稲刈りつれて来てくれてありがとう。また来たい!」とめずらしくお礼をきました。とてもよい企画で普通の旅行にない幸せな行程でした。

粟屋川市 宮本ゆみこさん



カエルなどいっぱいいるところに行けるきかいがなかったもので、とくに楽しかったです。川とかに大阪では入れないのでめっちゃ楽しかったです。いねかりはたいへんだし、夏は暑くて冬だから寒いと思います。これからもおいしいお米をがんばって作ってください。

城東区 恒藤佳翔さん(9歳)

※写真とコメントは同一人物とは限りません



自分て刈ったよ

CO-OP
滋賀コシヒカリ
5kg
11月5日
1,980円
※11月4日は、2,380円(5kg・無洗米)です

CO-OP
富山コシヒカリ
5kg
11月4日
2,080円
※「CO-OP 無洗米 富山コシヒカリ」は11月4日 2,180円(5kg)

～ 岩手 被災地ボランティア活動 ～



大槌町では知らない人はいない美容室を運営されていた佐藤さん(写真中央)と一緒に。

お店が津波で流され、現在仮設住宅に住まっていますが、「必ずここ大槌で、もう一度美容室を開くよ!」。佐藤さんもこの震災で様々な想いを持っておられるのに笑顔でお話していただきました。私たちももっとお手伝いをさせてもらえればと思いました。

10月4日、右: 富田さん(店舗本部)
左: 譲原さん(よどがわ生協)

これからも被災地に寄り添う活動ができますように引き続きご協力よろしくお願いたします

まごころネット募金

【共同購入・個配】では、提出用注文書「カンパ欄」1416番で受け付けます。個数(100円単位)を記入お願いします。

【店舗・組合員会館】では、募金箱を設置しています。

【郵便振替】では、(口座番号)00900-2-14876 (加入者名)生活協同組合 おおさかパルコープ

※通信欄に、必ず「遠野まごころネット募金」と明記ください。手数料は各自ご負担をお願いします。

遠野まごころネットホームページは <http://tonomagokoro.net/>

<お詫び> 47号表紙のJAやさと・福田さんの畑を「茄子」とご紹介しましたが「オクラ」の誤りでした。訂正してお詫びします。

【第2期第6陣】9月24日～30日 支所職員など13名(内よどがわ生協の方3名・ならコープの方1名)

久堀さん(鶴見支所)、松田さん(鶴見支所)、米田さん(寝屋川支所)、蒔さん(南寝屋川個配センター)、関司さん(西成支所)、桐本さん(南寝屋川支所)、宮川さん(ベジタブルセンター)、奥本さん(ベジタブルセンター)、岡本さん(よどがわ生協)、濱田さん(よどがわ生協)、山本さん(よどがわ生協)、足立さん(ならコープ)、鈴木さん



仮設住宅は高台にあり、麗のスーパー

までは車が無ければ待ち時間40分のバスを使うほかなく、(往復を考えると)かなり不便と年配の方がおっしゃっていました。これから寒くなるので余計に大変なことだと思います。飛び地のような外れにある不便な仮設ほど支援が必要なのに、規制で入れないなどの都合があり、行政と交渉して早く解決しないといけないと思いました。(10月29日大槌町小槌仮設住宅、平野支所平野区の配達担当の鈴木さん)

【第2期第7陣】10月1日～7日 支所職員など12名(内よどがわ生協の方2名・ならコープの方2名)

山本さん(北枚方支所)、中村さん(店舗本部)、上垣さん(枚方公園店)、亀井さん(共同購入商品部)、天野さん(共同購入商品部)、堀川さん(よどがわ生協)、石田さん(ならコープ)、黄瀬さん(ならコープ)、鈴木さん、大重さん、富田さん、譲原さん



鈴木さん

(10月6日、店舗本部の)

来年は 花見ができたらいいな

5月からのボランティア活動は10月中旬までで合計20陣(のべ27名)になりました。活動している職員の毎日の感想レポートを抜粋でご紹介します。



陸前高田市の方に津波で被災された時の話を聞かされたという笑顔で話されたという

「本当につらかった」と言っておられました。朝4時に起きて夕方6時に寝て、ガソリンが無いから徒歩で身内や知り合いを探したそうです。「春の花が咲いたのも散ったのも目に入らず、気づけば暑くなった!」。来年は、花見ができたらいいな」と言っておられました。ただただ黙って頷きながら、話をしつかり聴く姿勢で受け止めることが大切だと思いました。(10月6日、店舗本部の鈴木さん)



NO.5

被災者に寄り添い、絆をつなげる支援活動を



まもなく震災から8カ月目を迎えます。まごころネット・物資班では、陸前高田市と大槌町の入居仮設住宅(約4000戸)のほぼ8割に物資お届けの際に「くらしに関わるニーズ」の聴き取りを行なってきました。ボランティアという限界から全戸への継続した物資支援はできていませんが、これからは高齢者世帯をはじめ就労所得のない世帯に絞った支援を続けていく予定です。

物資をお届けする中から、「車を持たず買い物不便で、夜泣きする子どもの粉ミルクが欲しい!」というお母さん、「仮設入居が遅れ、知り合いになるきっかけを逃したため何日もご近所の方と話していない」という独り暮らしのおばあちゃん、「来週からやっと仕事に行けると少し安心」というお父さんなど、一人ひとりが異なる状況です。仮設団地の中のコミュニティーづくり、仮設自治会や行政とボランティア活動で「人と人がつながる」必要性を感じています。

これから一気に冬に向かい閉じこもりがちになります。物資班は単に物資をお届けするだけでなく「見守り活動」を大事にした取り組みを進めていきます。(NPO遠野まごころネットに常駐する事務局・林さんより)



毎日配送トラック4台で、10カ所ほどの仮設住宅へ物資を届けます。(写真は陸前高田市・9月26日)